

頑張る 農業法人

「農地をしつかり守り、勢いを付けて地域活性化の拠点になりたい」。京丹後市久美浜町の誠農海部株式会社代表取締役社長・關昌弘(せき)さんは目を輝かせる。

年から87年にかけて、約250畝の再圃場整備が行なわれ、これを機に「整備した田の有効活用や作業の効率化を進めよう」と、主に黒大豆のブロッコリーテーションが始められた。

「誠農海部」のネーミングには、「海部の農業に活気が出るように『せえの』と勢いが付く掛け声と、海部地域で誠心誠意農業を通じて地域活性化に取り組んでいこう、という熱い思いが込められている」と關代表は力を込める。

89年に同集落の農地を守ることを目的に、品田営農組合が結成され、10年先を見据えた「品田農業活性化プラン」を策定した。主な内容は、①個人での農機具の新規購入はしない②大型機械を導入したオペレーター組織による作業の協業化―などだった。

同社のある海部地区の品田集落は、旧久美浜町の南部に位置する平坦な稲作地帯。集落全体の農地は約30畝。基盤整備で一筆30ア区画を基本とする田が広がっている。海部地区では1983

この活性化プランに沿って集落営農が進められてきたが、近年、後継者不足の問題や、作業受託から利用権設定した農地管理の増加など、新たな課題が生じてきた。

京丹後市
久美浜町

せい の う かい べ
誠農海部(株)

特 定 農 業 法 人

地域活性化に取り組む關代表(前列右)



農地守り地域活性化

JAとの信頼の絆で拡大めざす

Aと結ばれており、農産物の販売は、全てJAに委託している。
米の乾燥・調製施設などの大型施設は同社で所有せず、JAの施設を利用している。

環境に配慮して化学肥料を使用せず、竹を細かく砕いて肥料にして栽培した特別栽培米を独自ブランド米「竹取物語」として、JAを通じ大阪で販売、好評を得ている。

JAに販売委託することで、農産物の生産に集中して取り組むことができ、年間計画を立てて水田を活用した多品目生産を実現することで、経営の安定を図っている。

「事務所から見渡す農地120畝の内、将来は50畝の経営を担いたい。地域活性化のシンボリックな組織になるため、各世代の同志を集めたい」と、關代表は夢を語る。

▽法人の所在地 京丹後市久美浜町品田1593。▽電話 0772(85)9008。

そうした中、2006年からは集落内の若手担い手を中心になり、法人化の検討を始め、JAの指導もあり、07年3月に特定農業法人「誠農海部株式会社」を設立した。現在、黒大豆8畝、水稲13畝、エダマメ1畝、ハウスネギと露地秋冬野菜1・35畝を生産・作業受託している。役員3人は元JA職員。長年の信頼関係でJ